

「21世紀COEプログラム」（平成15年度採択）中止拠点の評価コメント

機関名	東京都立大学	拠点番号	I 1 8
申請分野	社会科学		
拠点プログラム名称 (英訳名)	金融市場のマイクロ構造と制度設計 (Microstructure and Mechanism Design in Financial Markets)		
研究分野及びキーワード	<研究分野: 経済学>(ファイナンス)(経済理論)(経済制度)(ミクロ経済学)(計量経済学)		
専攻等名	社会科学研究科 経済政策専攻		
事業推進担当者	(拠点リーダー名) 渡部 敏明 教授 他 14名		

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書（平成17年1月現在）を抜粋

<p><本拠点がカバーする学問分野について> ファイナンス理論、ゲーム理論</p>
<p><本拠点の目的> ファイナンス理論とゲーム理論を融合して、(1)金融市場のマイクロ構造を分析可能にする理論を提示すること、(2)(1)の理論をもとに日本の金融市場や金融制度を分析し有効な制度設計に関する提言を行うこと、(3)(1)の理論をもとに個人の戦略的行動を織り込んだファイナンスの分析ツールを提示すること、(4)(1)から(3)に関わる研究が可能な若手の人材を育成すること、を目的とする。</p>
<p><計画：当初目的に対する進捗状況等> 金融市場のマイクロ構造を分析可能にする理論の提示については、金融市場のマイクロ構造を分析する理論構築に貢献するような研究成果をいくつか得ることができた。理論をもとにした日本の金融市場や金融制度の分析、有効な制度設計への提言については、3つのシンポジウムがこれらに関連する提言を行った。個人の戦略的行動を織り込んだファイナンスの分析ツールの提示については、データベースを作成するなどの活動を通して、金融市場取引のマイクロ構造を分析した。若手人材育成については、博士課程在籍中学生、外国人を含む5名のCOE研究員を雇用了。</p>
<p><本拠点の特色> 学際的な研究プログラムに対応して、ゲーム理論とファイナンスに関連する研究者を多く有し、集中的かつ有機的連関をもった資源投入が可能であった点が特色の第一である。次に、開始当初の16名の事業推進者は、高水準の研究業績を持つのみならず、多くの者が海外のPh. Dを取得し、国際研究拠点形成において利点をもっていたのが特色の第二である。研究者の年齢構成が若く、平均年齢が採択時40.1歳だったのも本拠点の特色である。</p>
<p><本拠点のCOEとしての重要性・発展性> 現代の金融市場においては市場への参加者の相互依存関係がはたす役割はますます大きくなっており、ファイナンス理論を構築する際に経済主体間の相互依存関係を明示的に考慮するゲーム理論の成果を取り入れ、さらに詳細な取引データを用いた実証分析で理論の有効性をチェックする「マイクロ構造分析」への需要が世界的に高まってきている。しかし、未だ包括的な研究がなく、従来のファイナンス研究で遅れをとった日本も巻き返しを図れる可能性がある。</p>
<p><本プログラム中止までの成果> 論文という形での学術的な成果のみならず、データベースの構築を通じた研究環境の整備、ウェブサイトを中心としてディスカッション・ペーパーや分析プログラムの公開など情報発信の整備、COEワークショップやCOEカレッジなどを通じた若手研究者間の結節点の整備など、長期的な研究拠点形成をはかった。</p>
<p><本拠点における学術的・社会的意義等> 証券市場の取引ルール、株の空売りや先物取引に対するルール、ヘッジファンドの行動、銀行の規制、証券税制など、具体的な金融制度やルールの設計において、日本やアジアでは大きな問題が山積しており、このような金融制度の設計において、本拠点が果たす役割は大きいと期待される。特に、本拠点は、欧米の理論をそのまま適用するのではなく、日本やアジアの金融制度を実証的に分析し、その分析結果を踏まえたうえで適用を試みるものであり、日本やアジアの金融市場の制度設計に対して有効な政策提言を与えられる可能性があった。</p>

◇21世紀COEプログラム委員会における評価

<p>(評価コメント)</p> <p>本拠点は、ファイナンスとゲーム理論を理論的基礎として金融市場のマイクロ構造を分析し、新たな金融市場分析の道具を開発し、また金融制度設計のための政策提言を行おうとしたものである。学術的にも計量ファイナンスと制度設計の理論の最先端を取り扱い、またその成果は金融市場の実務家、政策担当者の両方にとって有用になる可能性が高かったという意味で、本拠点が目指したものは重要であり、COEの拠点として支援するのにふさわしいものだった。</p> <p>研究活動では、3分野（ファイナンス理論、ゲーム理論、制度分析）を個別に見ると、ファイナンス理論ではかなりの研究成果が得られたにもかかわらず、ゲーム理論的研究や特に制度分析の分野での業績がまだあまり出ていなかったという感は否めない。しかし、COEディスカッション・ペーパーのうち4本が国際学術雑誌に掲載されたことや、国際的に著名な研究者を招いて国際コンファレンスを行ったことなどを考えると、短期間ながらそれなりの成果が上がりつつあったと評価する。</p> <p>教育活動については、博士号授与者数を増やすという目標は（この短期間では）達成できなかったものの、若手の人材を惹きつけて教育しようという努力は明らかであり、それが博士課程入学者の増加にもつながったことは高く評価する。また、5名のCOE研究員を採用し、それぞれが研究職に転出したことは、人材育成の仕組みがすでに効果を発揮していたことを示す。ティックデータなどのマイクロデータの分析は、学術的にも実務的にも今後さらに重要性を増すと予想される分野であり、そうした分野での人材育成に力を入れ、当初の目的に沿って、計画が進み始めた拠点が当該大学の再編の過程で研究者の流出を招き、中止せざるを得ない状況となったことは遺憾である。</p> <p>今後、短期間ながらCOE拠点の活動において得られたデータ等の公共性の高い資源については、大学および事業推進担当者の責務として広く社会に還元していくべきだと考える。</p>
